



自民創生
梅元 うめもと

建治 けんじ



斜面市街地の住宅政策

問 斜面市街地に住宅が多い本市の住宅政策は、生産年齢人口の増加につながる効果を上げたのか、効果の検証結果と今後の取組について伺いたい。

答 斜面市街地に多い空き家等に活用できるリフォーム等への助成を行うとともに、令和3年度からは若者等に選ばれるまちづくりに寄与する民間事業者の取組を認定する「住みよかプロジェクト協力認定制度」を開始し、市民や移住者への住宅供給や情報発信、住宅問題等に関する相談・支援を行う仕組みの構築等にも取り組んでいる。取組の効果は一定あるものと考えているが、斜面市街地では、交通環境の改善や居住需要の喚起が課題であると考えているため、さらなる情報発信に努めるとともに、民間事業者とも連携して使える空き家を活用して若い世代等の居住促進につなげていきたい。

長崎市に
よりよい
住まいを



▲住みよかプロジェクトのロゴマーク



市民クラブ
中山 なかやま

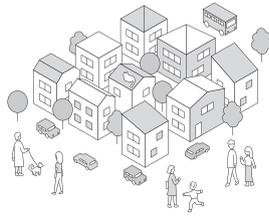
大 だい



立地適正化計画の今後の方向性

問 策定から5年が経過した本計画のこれまでの取組の評価と今後の取組について伺いたい。

答 都市機能の誘導については、出島メッセ長崎の開業やJR長崎駅ビルなどの建設が進み、居住機能の誘導については、新大工町地区市街地再開発事業の完成や、緩和した容積率を利用したマンション建設が進むなど、計画に定めた居住誘導区域内の人口密度は目標値に届いていないものの、一定の成果が出ているものと考えている。



現在、計画の改定作業を進める中で、進捗状況や効果、課題等について整理を行っており、今後も公共交通機関の利便性の維持をはじめ、土地利用の規制緩和など各種誘導施策等に取組み、にぎわいのある、安全安心に暮らせるまちづくりに取り組んでいきたい。



ながさきミライ
平 たいら
たけし



長崎スタイルのラストワンマイル

問 昭和時代に造られたニュータウンでは、高齢化が進む中、長崎スタイルのラストワンマイル（バス停から自宅までの移動手段）の取組が必要と考えますが、見解を伺いたい。

答 既存のニュータウンについては、バス路線が存在するものの、高齢化によりバス停までの移動に負担を感じる住民が増加しつつあると認識している。このような地域でのラストワンマイルの取組としては住民相互の支え合いの考えなどを基本としつつ、具体的に地域からの要望などがあれば、他都市の事例や国の補助金の活用など、本市としても可能な限り支援したいと考えている。取組に際しては、タクシー事業との兼ね合いを考える必要があるが、市民の暮らしやすさに重要なことであるため、引き続き取り組めることから取り組んでいきたい。



ながさきミライ
森きようへい



まちぶらプロジェクトの評価と今後

問 これまでの10年間の評価と、今後の継続の在り方について伺いたい。

答 新大工町地区市街地再開発事業や、町家の維持と再現に係る47件の助成、唐人屋敷の顕在化事業、山手地区における歴史的風致維持向上計画の策定と事業着手、95件に及ぶまちぶらプロジェクト認定事業などにより、減少傾向にあったまちなかの歩行者通行量がコロナ禍前には増加傾向に転じるなど、一定の成果を上げてきたと考えている。



今後は、新長崎駅ビルや長崎スタジアムシティなどの新たな集客拠点から生まれるにぎわいをまちなかまで呼び込むことが必要不可欠であるため、本プロジェクトの取組を継続し、これまで以上に地域の商店街や自治会、活動団体と連携しにぎわいづくりの取組が生まれるようまちなかの支援を続けていく。

概要

一般質問

常任委員会の
主な審査内容

議決結果、
人事、請願等

行政視察等